生活新聞
2003 | Aug.18 | No.385
博報堂生活総合研究所
Hakuhodo
Institute of
Life &
Living

流通願望

1. 人の流れが悪くなっている

モノや情報はあふれ、お金は流れない。それが、デフレ。
でも実は、一番問題なのは人が流れないことでは？
例えば「引きこもり」は人が流れない時代の象徴なのかもしれないが、
こんな不況のときこそ、リアルな人の動き、人の流れの大事さを
見直すべきなのではないだろうか。

自分流通度調査

世の中がバーチャル化しつつある今、「歩く」「人に会う」、という最も原初的な人間活動はどうなっているのだろうか。そうした人の日常的な流動実態を「自分流通度」として調査を行ってみた。

（調査内容）調査対象者＝計9名

以下の内容を対象者自身に1週間記録してもらった。
さらに後日、調査の感想について簡単なインタビューを行った。

・あなたは、1日どれくらい歩いていますか？（万歩計で計測）
・あなたは、1日何人の人と会っていますか？（実際に会って少しでも会話をした人数）
・それはどんな1日でしたか？

■ 20代クリエイターの自分流通度

今回の「自分流通度調査」では様々な職業の方に1週間の行動を記録してもらったが、まず最初に情報産業に携わる20代のクリエイター2人（エディター、デザイナー）の結果をみてみよう。ほぼフリーという立場で働く2人は、近未来のナレッジワーカーの姿を予見させてくれると思うのだが。

仕事から恋に発展することが減ってくる

フリー編集者兼ライター・Sさんの証言

フリーのエディター兼ライターSさんは、今回の対象者の中では1週間に会った人数が24人と最も少ない。
「全体的な感想ですが、ＩＴ化によって、会わなくても仕事ができるようになってしまったのが数字で確認できたのは大きかったです。場所に縛られなくても済むようになった反面、コミュニケーション側で失うものも大きいと思います。例えば、仕事から恋に発展する、、、なんてことが、減ってくると思うんですよね。顔を合わせないと。それに、仕事の際に、あの人と一緒に仕事をしたい！ということがあると思うんですが、一緒に仕事をしている感じは、ＩＴ化によって薄まっているように思われます。肝心な部分以外を共有できないといいますか。カメラマンさんの場合だと、いまや基本的に撮影のとき以外は会わないですから。というわけで、やはり在宅勤務者ほど鬱になりやすいのではないかという不安がよぎりました。」

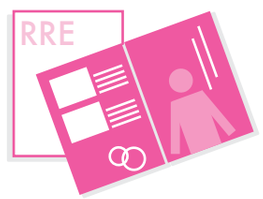
日付	歩数	会った人数	今日はどんな日でしたか？
7/6(日)	12,149	8	付きあいでパソコンゲームの愛好家たちの集いに参加。共通コードはなく、コミュニケーションはできず。夜にぐうぜん中学時代の同級生と再会しました。
7/7(月)	12,395	0	七夕のプレゼントなのか、松本零士さんへのインタビューが実現へ。カメラマンのブッキング等、仕事はしたものの、電話だけでだれとも会いませんでした。
7/8(火)	8,444	2	大宅壮一文庫でインタビュー用資料をチェック。仕事は今日も電話とメールで片付く。会ったのは両親だけ。元気そうでした。
7/9(水)	5,281	0	原稿書き、原稿取りの一日。だれとも会いませんでした。
7/10(木)	11,930	7	松本零士さんを取材。等身大メーテルを見れて感激。デッドラインが近いため、朝までインタビュー起こし。
7/11(金)	7,219	3	トニー・レオン主演の話題作「インファナル・アフェア」の試写へ。配給会社の方たちと雑談。カメラマンと写真のうけわたしをするのも、サーバー経由なのでした。
7/12(土)	7,192	4	CD制作企画が進行中の知人ミュージシャンのデモ録音に立ち会い。その後は朝まで原稿書き。リポビタンDを飲む。
合計	64,610 歩	24 人	20代男性Sさん・エディター（東京）

自分でも、引きこもりと変わらないんじゃないかと思うことも…。

デザイナー・Ｆさんの証言

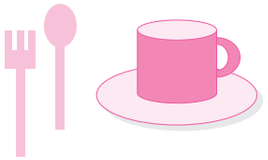
多忙なデザイナーＦさんもやはり1週間で会ったのは29人とＳさんについで少なかった。また歩数も少なめだ。「製作の仕事が忙しくなると、本当に家からでなくなってしまう。自分でも、引きこもりと変わらないんじゃないかと思うことも…。いわゆる生活必需品の購入には、歩いて15秒のスーパーで事足りてしまうし、本やCD、銀行の振り込みに関しては、普段からネットを利用しているので、どうしてもそこじゃないと買えないモノ、でない限りは繁華街にも向かわない。この1週間は、たまたま、打ち合わせ後の製作週間だったせいもあるが、本当に人に会う機会も少なかった。週末は逆に、家にいる時間が少なく、外へ出て色々なものに触れて、会話してみた。ネットやカード決済システムの普及により、消費という行為にはリアルさがなくなっている。リアルではないが、恩恵として事務的なところは無駄なくスマートにこなせるのなら、残りの部分は、不器用だろうと下手くそだろうとかまわないから、しっかりと自分の中に残っていくような体験を積み重ねていきたい、と思って日々を過ごしている。それが現れるような1週間だったかもしれない」

日付	歩数	会った人数	今日はどんな日でしたか？
7/7(月)	3,686	2	今日は朝方寝て、お昼起床。近所のお店に買い物に行った以外は、家でずっと仕事をしていた。夜に知人と歩いて50mの和食屋さんで、お酒を飲みつつ、2時間ほど会食。どう考えても、今おもしろいのは、自分と同じ20代の女の子だな、と再認識してそのまま就寝。
7/8(火)	4,841	3	最近は睡眠不足が続いている。今は仕事のピークで入校に追われているので、時間が経つのがとても早い。夜に１件打ち合わせで近所のホテルにあるカフェへ。晩ご飯を食べず戻ったので、ぼーっとしながら晩ご飯を作って食べ、また少し仕事をして夜中３時に就寝。
7/9(水)	5,205	4	昼間、よく会う友人と、久しぶりに会う友人と、近所でランチをした。あとは夜になってから、近所に入校。昨日の朝９時からずっと起きている状態なので、どこで区切りをつけていいのか…これからシャワーを浴びるので一日の終わりとすることにする。
7/10(木)	8,547	4	徹夜して札幌に来てしまったことをかなり後悔。今回の札幌訪問の理由は、今月１日にオープンした、姉の美容室見学＆ディスプレイの打ち合わせ。ぼーっとしながら開店祝いの花を生け直したり、近所にあるcafeに行ったり、夕方から店内撮影をして、夜は姉の旦那さんもまじえて、なぜか高級レストランにて食事。23時には就寝。
7/11(金)	8,406	7	朝姉の家を出て徒歩で札幌駅に向かい、ＪＲタワー脇の日航ホテル内にあるスパへ。初めて全身マッサージも経験しリフレッシュはしたものの、帰りの便の出発時間が間近で、慌てて空港へ。東京に戻ってからは、仕事の修正が来ていて、焦りながらも白い恋人を食べてなんとか終了。晩ご飯は友人を誘って、近くのカフェの屋上で飲みながら終電の時間まで談笑。身も心も針が大いに振れた一日。
7/12(土)	8,267	4	友人と買い物へ。お目当ては浴衣。帯、下駄と共に購入。その後、最近連絡を取っていたとある専門学校の広報さん(女性)と初めてお会いする。なじみのカフェで打ち合わせ、というより飲み会。見事な飲みっぷりに圧巻。気が付けば私もかなり酔っぱらっていた…
7/13(日)	11,076	5	お昼起床。たまっていたメールのお返事などをして、現代美術館へ。田中一光展の招待券を持っていたのに家に忘れて1000円払う羽目になり、ちょっとがっかり。その後、アサヒスクエアで知人がオーガナイズする音楽イベントへ。ライブやＤＪ、ライブペインティングと盛りだくさんな内容で、かなり大満足して帰宅。最終日にして初めて万歩達成。
合計	50,028 歩	29 人	20代女性Ｆさん・デザイナー（東京）



日付	歩数	会った人数	今日はどんな日でしたか？
7/6(日)	8,531	48	昼間友達と5人で天ぷら屋に行った。その後6時からお店で流しソーメンイベント。たくさんのお客さんに来てもらいました。
7/7(月)	7,248	7	今日はお店は休みで奥さんと2人で実家に行った。両親と弟と祖父の合わせて5人で外食をした。
7/8(火)	8,009	31	大学時代の友達でロンドンで建築を勉強している奴が急に店に遊びに来た。
7/9(水)	5,949	26	ランチがまあまあ忙しかった。途中休憩でNONに行き、ビールを一杯。
7/10(木)	6,411	18	今日は一日ひまで、何かいやな一日でした。明日はがんばろう。
7/11(金)	10,035	36	今日は金曜日らしく、ランチも夜も忙しく売上もよかった。
7/12(土)	9,104	31	高校のラグビー部の友達が来店。お店が終わった後、ダーツをやりに行って、始発で帰宅。
合計	55,287 歩	197 人	20代男性Ｋさん・カフェ店主（東京・渋谷）

■ カフェと人間流通



意外とお客さんと会話が少なかったりするんです

カフェ店主・Kさんの証言

今や若い人の憧れの職業であるカフェオーナーのKさん。今回の調査では1週間に会った人数は197人とさすがにカフェ店主という結果。しかしこのKさんは、ちょっと疲れた様子でこんなことを語ってくれた。

「お店にくるお客さんと意外と会話が少なかったりするんですよね。お店のことをどう思ってるんだろうとか気になるんですけどね。それと、ずっとお店にこもりっぱなしなので、お客さんがあまり来ない日なんかは色んなことを考えたりして煮詰まったりすることも多いんですよ」

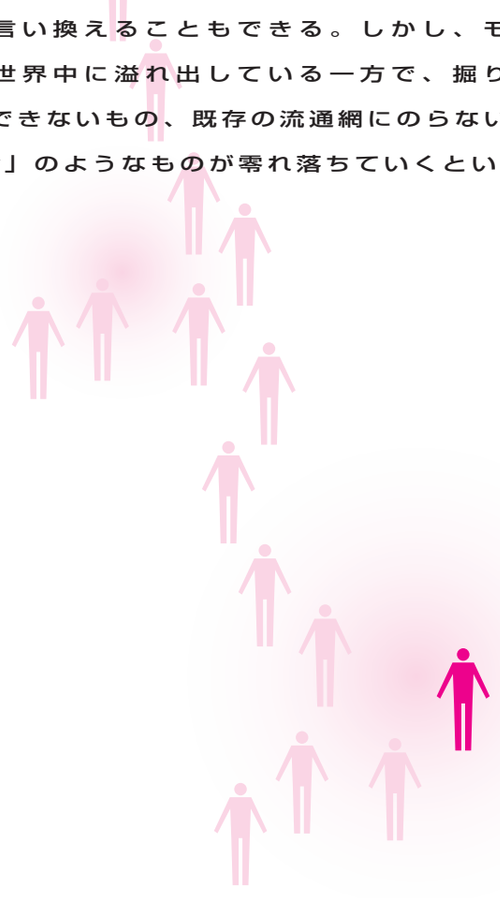
工夫をこらしたメニューやこだわりのインテリアで自分の世界観をお店という空間に実現している手作りカフェ。しかし、そんな理想的な空間も人が交わる場所として機能するのはそう簡単なことではないらしい。

■ 人間の端末化が進み、人が流れなくなる

情報機器の発達によって、よっぽど意識していないと人は「端末化」してしまいがちだ。
人間がシステムに管理されるというのはSFの常套パターンだが、実は今という時代はこれに近い状況になりつつあるともいえる。「いやー今日は忙しかったなー。よく働いたよ」という1日をビデオで録画して再生したら、PCの前にいるだけの自分が映っているだけというのは当たり前だけど怖い現象のようにも思える。社会が極端に脳化している、人間自体が端末化しているという現状。
本来、人が交流する場であるはずのカフェも、客の側が「おしゃれな店を一応チェック」という意識だとすると、なかなか「流れ」は生まれない。情報化社会が進んだ結果、お店のリアルな空間も情報として処理されてしまうため、カフェが社交空間として機能しにくいという現象が起こっているのかもしれない。
一方、B toB（企業間取引）の世界に目を移すと、IT化が進むことによって取引の自動最適化が進み、将来は営業マンの数が激減すると予測されている。IT革命が声高に叫ばれた90年代に比べすっかりITが日常になった現在、実は社会のシステム化、自動化、最適化がすごいスピードで進んでいるようだ。様々な領域で、リアルな人の動きがどんどん希薄になっていく背景には、経済・社会活動の最適化、システム化が急速に進行していることがあるのではないか。しかしこうした状況は実は大きな問題をはらんでいる。人がリアルに動くことで多様で新しいエネルギーの流れ、気の流れのようなものが生まれるわけで、それこそが、本当の意味での「景気がよくなる」ことだと思うのだが....

2.「残余」に対する流通願望

市場経済が全面化し世界を覆い尽くすグローバリズムとは、「世界」のすべてを採掘し、交換可能（流通可能）な価値に置きかえることだと言い換えることもできる。しかし、モノや情報が加速度的に増えて世界中に溢れ出している一方で、掘りつくせないもの、容易に交換できないもの、既存の流通網にのらないもの、つまり「価値以前」「残余」のようなものが零れ落ちていくという状況も生まれつつある。



「残余」への流通願望

商品として明瞭な形をとりにくい「残余」。
世界の商品化が猛スピードで加速化するにつれ、人々の欲望は、商品（価値）だけでなく、この「残余」（価値以前）へと向かっているのではないか。掘っても掘っても掘りつくせない「残余」への欲望。
残余は、商品になりにくいわけだから、勿論既存の流通網にものりにくい。
でも、この残余をシェアしたい、いわく言いがたいものを共有したいという願望はますます高まっているのではないか。容易に流通しえないものを流通させたい、そんな願望が高まっているという仮説。

「残余」とは人そのもの

残余、謎、とは言い換えると「人そのもの」。だから、それを流通させるのは人自体。人が人に対面し、残余を伝える。
例えば、人の身体性に関わる「踊り」という行為は残余の典型かもしれない。ダンスへの欲望。ダンスはいまや商品化の最前線に位置し（ダンスグループとしてのSMAP、ダンスミュージック、フラメンコ教室の人気等）、大きな市場を形成しているが、商品となっても最後に言い尽くせないものが残るところが、その人気の背景にあるのではないか。

人という燃焼系が動くことの意味

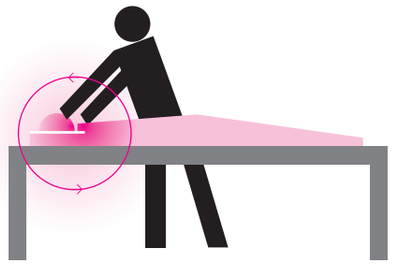
人の運動エネルギー効率は非常に高いといわれる。ちょっとの食事だけで、人間はいろんなことができてしまうわけだが、これは石油燃焼系→発電といったエネルギー系統よりもはるかに効率が良いらしい。だから、お腹に脂肪がたまっている状態というのは社会的なエネルギーロスということにもなるだろう。体脂肪計が最近普及しているが、これも環境問題の一貫として捉えてみると面白いかもしれない。
また最近話題になりつつある「フードマイレージ」という考え方。これは、食料が消費者の手に届くまでにどれだけの距離をかけているかを計測してみるというものだが、国別に比較してみると、食糧自給率の低い日本は圧倒的にフードマイレージを稼いでいるらしい。そもそも食べ物があるところまで歩いてとりにいく、というのが人間の運動能力の起源。そうした基本的なことを見直す時代に入ってきているのかもしれない。人の流通とは、そうした社会全体のエネルギー効率とも決して無関係ではないだろう。

人が実際に足を使って動き回り、「価値以前」や「残余」といったものを運ぼうとする「流通願望」は、社会の様々の局面で発見できるだろう。後半では、日本国内だけでなく、貿易や国際協力の分野における「流通願望」についてもみていきたい。

3. 新しい流れをつくる①

～局部鬱血を解消する～

モノや情報があふれている日本のような先進国で、社会が活性化しない一つの理由は「残余」を流通させるための毛細血管の血行が悪くなって鬱血していることもあるだろう。毛細血管を張り巡らせるのは人の細かな動きだ。歩き回り、人とたくさん会っている人はきっと「自分流通度」が高く、毛細血管を活性化させていることになるはず。
鬱血した肩や首をもみほぐすような人の新しい流れ、
「流通願望」の兆候を調査結果からみてみよう。

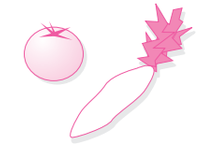


日付	歩数	会った人数	今日はどんな日でしたか？
7/6(日)	19,715	53	野菜の引き売りに行ってお客さんにたくさん話しかけた。 朝、たくさん収穫したので、その分よく歩いた。
7/7(月)	14,529	13	午前中、農業仲間と直売所を作った。その際、いろんな人と話をした。 あとは一人でもくもくと仕事。
7/8(火)	14,347	6	畑仕事中、散歩の人によく話しかけられる。
7/9(水)	15,077	12	家庭教師の仕事でご家族とお話をした。農作業、いろいろやった。
7/10(木)	15,114	7	農作業を一日中やった。
7/11(金)	12,588	9	農作業を一日中やった。野菜の配達もした。
7/12(土)	17,248	74	野菜をとあるお店のバザーで販売した。豆腐作り教室の先生をやった。
合計	108,618 歩	174 人	20代男性Hさん・農業（山梨県）

■ 農業はサービス業、お店はセラピスト

人と野菜が運ぶ残余　有機農場経営・Hさん（山梨県）の場合

産直の野菜というのは、単に「安全でおいしい」という価値だけを運んでいるのだろうか？　スーパーの野菜でもよく「私がつくりました」という農家の方の写真つきで売られていることも多くなったが、実際につくっている人と対面したことがあるとないとでは野菜を食べる感覚は全く次元が違ってくる。そこには「価値以前」「残余」のやりとりが発生しているともいえるだろう。
山梨県白州で有機農場をたった一人で経営しているHさんは、自分でつくった野菜の流通販売もすべて自分で手がけている。直売所に持っていって自分で直接お客さんと会話しながら野菜を販売する。ＰＯＰツール等も自分でつくる。生産～流通から広告販促まで全てこなしているというわけだ。そんなHさんが1週間の間に会っている人数は174人と相当な数だ。
農業はいまや接客業になりつつあるのかもしれない。



人と服が運ぶ残余　ブティック店長・Mさん（東京・代官山）の場合

衣服というのは、文化や人の社交に深く関わる領域。そんな人間の根源的な部分に触れるところで働いている洋服屋さんというのは、ある意味お客さんのセラピストのような仕事でもある。
Mさんは代官山の人気店の店長として、若い社員の教育にはすごく厳しいという面がある一方、お店に出るときは、のんびりとした癒し系キャラでお客さんの心を捉え、お客さんに洋服を売る才能は天才的。今回「会った人数」としてカウントしたのは、しっかり会話をしたお客さんだけで、本当はもっと多くの方と会話を交わしているとのこと。お客さんに気持ちよく服を買ってもらえる洋服屋さんは、商品やサービスを売る一方で、目に見えない「価値以前」も流通させている、つまり社会の毛細血管として大事な機能を果たしているのではないだろうか。また、Mさんの会社は直接お客さんに接する業態ということもあって、従業員教育は相当厳しいらしいが、Mさんは「一番楽しいのが若い子の教育ですね」とおっしゃる。「人が育っていくのが面白いんですよ。人を育てることがなければ、自分も育たないですから」。　洋服屋さんでは、お客さんとのコミュニケーションだけでなく、企業社会では難しくなりつつある社内世代間コミュニケーションも上手く機能している様子がうかがえる。

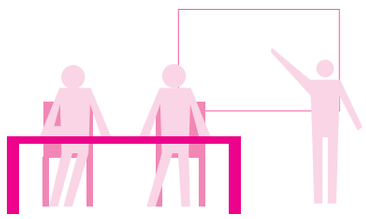
日付	歩数	会った人数	今日はどんな日でしたか？
7/8(火)	8,232	3	今日は仕事がOFFの日で、近所へ食事に行き、買い物をし、帰宅。自宅の中で掃除に励む。
7/9(水)	15,227	21	今日は11:00に出勤し、セール期間中という事もあり、集客が見込め沢山の方と対話をした。
7/10(木)	13,531	15	今日は天候不良により集客が少なく、対話するお客様も少なかった。又、通勤もバスであった為、昨日より歩数も減った。
7/11(金)	8,313	5	今日は仕事がOFFであり、セールまわりをした。都内(表参道→池袋→銀座)とまわり、夜は地元で家族と食事をする。
7/12(土)	11,491	28	今日も天候不良の為バスで出勤した。土曜日という事もあり、集客はあったが一人一人の対話が長かった為あまり動き回る事が少なかった。(男性としゃべる機会が多かった)
7/13(日)	13,114	35	本日もバスにて出勤した。集客が非常に多く回転も早かった為出会う方は多かった。よく動きよくしゃべった一日であった。
7/14(月)	7,685	12	本日もバスにて出勤した。セールも終わりに近付き動員が激減した。その為付帯業務が多く動き回る事が多々あった。
合計	77,593 歩	119 人	20代女性Mさん・ブティック店長（東京・代官山）

■ 情報流通ハブとしてのNPO

人が人を運ぶ　NPO活動家・Tさん（東京）の場合

流れが悪くなった企業社会、行政の世界に入り込み、澱みを取り除き、新しい水路をつくっていくような存在がNPO。こうした活動は、決してPC端末上だけではできることではない。NPOに働く人は様々な領域の人間に会い、情熱を傾けて説得し、巻き込み、プロジェクトを動かしていくということが大事になってくる。
長年働いた商社を退社して、今は夫婦揃ってNPO活動に邁進しているTさんはまさにその典型例だ。Tさんは1週間の間、実によく歩き、よく人と会っている。

日付	歩数	会った人数	今日はどんな日でしたか？
7/7(月)	2,847	1	終日、デザイン
7/8(火)	14,604	8	13:00　8月に行うイベント「大江戸打ち水大作戦」のチラシを配りにヒートアイランドシンポジウムへ(受付の人　2名)山梨のNPO代表を含めミーティング 18:00　祖母及び母へ、親孝行で新宿の豆腐専門店へ
7/9(水)	17,113	12	16:00　「大江戸打ち水大作戦」に向けた打ち合わせ。第3回水フォーラム事務局内会議室にて 19:00　7/25(金)に開催されるカフェイベント「サイレントシネマライブ」の件で打ち合わせ
7/10(木)	6,791	9	12:00　エコツアー会社のWEB制作の打ち合わせ。　新宿にて 16:00　「大江戸打ち水大作戦」のWEBについて飯田橋のトランクネットにて打ち合わせ
7/11(金)	12,839	6	14:00　大江戸打ち水大作戦のPRに小松川平井の町内会長宅訪問 18:00　千葉・君津の森「ささカフェ」のオープンに向けた打ち合わせで市川にあるリサイクルショップへ 徹夜　「ささカフェ」[7/20(日)]のオープンに向け、チラシのデザイン
7/12(土)	18,886	23	12:00－14:00　カーシェアリング(車の共同利用)を普及させるNPOの設立のため、ミーティングを東京都庁展望台45Fカフェで。 21:00　「ささカフェ」のオープンに向けた準備のため千葉県君津市上総の古民家へ。そこで火を囲みながら
7/13(日)	20,155	15	10:00－　「ささカフェ」のオープンに向けた準備開始。駐車場整備etc 22:00　帰宅
合計	93,235 歩	74 人	30代男性Tさん・NPO活動家（東京）



■ 主婦と教室

教室が人を運ぶ　70代主婦Yさん、30代主婦Aさんの場合

地域コミュニティや血縁コミュニティが希薄化している社会で、孤立しがちな専業主婦やお年寄りにとって「教室」というものが、大切な人との交流の場になっているようだ。料理教室、手話教室、健康教室。教室のある日のYさん、Aさんはたくさん歩き、たくさんの人と会っている。「教室」とは主婦の流通願望をみたす場といえるのかもしれない。

日付	歩数	会った人数	今日はどんな日でしたか？
7/7(月)	12,307	15	午前中、母二人を連れて耳鼻科に行き、午後は「スパイ・ゾルゲ」映画を観て一日中外出していました。我が街市川をぐるぐる歩きました。　AM9:00～PM8:00
7/8(火)	4,355	3	昨日の疲れが残り、一日家に居ました。洗濯と掃除。生協の配達日だったので、買い物にも行かず。会った人は宅配の人。
7/9(水)	14,889	27	午前中お料理教室。帰りに友達とお茶して午後は手話教室。そのまま皆さんと手話の先生のお誕生会、月島にもんじゃを食べに行きました。 千葉 - 東陽町 - 月島 - 本八幡　AM9:10～PM9:30　小旅行です(笑)
7/10(木)	3,462	2	昨日の疲れが…。胃がムカムカ食欲が無い一日でした。洗濯しましたが、お天気が悪く、こんな日は一日「眠たい病」です。昼寝しました。会った人は宅配の人。電話では三人の友達と話しました(苦笑)
7/11(金)	12,000	15	久しぶりのお天気で、午前中で洗濯物が乾いてしまい嬉しかったです。午後からは「お花」のお稽古で、私の生地、津田沼に行きました。このアンケートでいただいた図書カードで欲しかった本を探しに丸善と芳林堂に行き、3冊発見しました。昨日読んだ「脳を鍛える」の中に、読書と日記がいいと書いてあったので、今週のこのアンケートは、その後の私の生活の新しい風になりそうで…WAKUWAKUした一日でした。
7/12(土)	12,475	8	午前中母の耳鼻科に一緒に行き、午後は自宅でゆっくりしました。
7/13(日)	7,354	17	祖母の初盆でお墓まいりに行きました。久しぶりに一族全員集まり、皆の顔が見れて嬉しかったです(笑顔)　車で出たのであまり歩けなかったな。
合計	66,842 歩	87 人	30代女性Aさん・専業主婦（千葉県）

日付	歩数	会った人数	今日はどんな日でしたか？
7/6(日)	4,387	16	午前10時から「ゆうわ法」横浜の成田和子先生の講座と、かかと落とし教室で実習。自律神経の働きを高める運動と情報に惑わされず自分にとって良いものを選ぶ力(体質も生活習慣も違うから)「体観」で気をみる力を育てるのがゆうわ法と言う初めてのお話でした。
7/7(月)	2,753	2	台所片付け、除湿
7/8(火)	3,065	7	ゆり歯科クリニック虫歯治療 買い物 圧力ジャー炊飯器購入。玄米がちょっと美味かな
7/9(水)	2,862	1	片付け。ミシン調子みて使う。
7/10(木)	3,930	3	センサーオーブンレンジを購入。用途が色々で操作も複雑、使いこなせるかな。古いのは簡単でよかった。取扱説明書がはなせない。　洗濯3回
7/11(金)	3,056	2	COOP商品、食品受け取り注文日
7/12(土)	3,308	6	今週は電気製品が次々と故障、浄水機まで具合が悪くなり取り外しました。蛇口まわりがすっきりしてこのまましばらくつけたくないと思いました。昔は何でも簡単でよかった。
合計	23,361 歩	37 人	70代女性Yさん・専業主婦（三重県）

4. 新しい流れをつくる②

～足つぼマッサージとしての国際協力～

世界的なデフレといっても、モノや情報があふれているのは一部の豊かな先進国に限られている。先進国という「局部」は鬱血状態で、アジア・アフリカなどの経済的後進国は、血がめぐらず冷え性状態。この「局部」と「末端」の間に新しい流れをつくることが経済循環を活性化させる一つの鍵ではないだろうか。足の裏のつぼを刺激することで体全体の血行を促進する、気のめぐりを良くする。例えば、日本の景気回復に直接関係がなさそうな国際協力活動が、足つぼマッサージのように日本の鬱血状態に効いてくることもあるのではないか。
フェアトレードという新しい貿易コンセプトや、新しいタイプの国際協力NGOの活動の中からは、そんな「マッサージ効果」「流通願望」が見えてくる。

■ 日本型フェアトレードビジネスの可能性

フェアトレードカンパニー(株)　取締役広報担当・胤森なお子さんインタビュー

消費＝国際協力＝経済の足つぼマッサージ

先進国で消費される商品の多くは、安い労働力を求めて中国や経済的後進国に生産拠点を移すようになりつつある。そうした生産国の立場も考え、フェアな貿易を行っていこうというのがフェアトレードだ。フェアトレードは、アジア・アフリカなどの第3世界が先進国の大企業だけに頼らず、地域の特性に合わせたスモールビジネスを育成し、地域の経済的自立をはかっていこうとするプロジェクトでもある。つまりフェアトレードとは、グローバルカンパニーという大動脈を補完していく、国際レベルの毛細血管ともいえる存在なのである。
今回取材を行ったフェアトレードカンパニーは衣服を中心にした品揃えだが、商品開発やマーケティングに力を入れているので、他の洋服店や雑貨店と比べても遜色のないお洒落で魅力的な商品が沢山ラインナップされている。ボランティア的に無理をして欲しくもない商品を購入するということではなく、自分が欲しい商品を買ったらそれが国際協力にもつながっていく、という仕組みだ。消費活動が足つぼマッサージのようにして国際間の新しい経済循環をつくるというわけだ。

人が中心となる貿易

フェアトレードカンパニーの胤森さんは、会社のビジョンについて次のように語ってくれた。
「生産者と消費者を信頼でつなげることが大きな目的なんです。生産者を単なる労働力としかみなさない今のシステムはおかしいのではないかと。お金のある先進国のニーズにこたえて、外貨を稼ぐために、土地を持たない小作が非常に搾取的な状況のもとに働かされているわけですが、そういったことをしてまで、私たちは安いものを大量に買う必要があるのだろうかと」

「物事の順番が違うんですね。こういうニーズがあるから、それを一番安くつくれる方法は何か、ということではなくて、仕事を必要とする人達がいて、そこに仕事を提供するにはどうすればいいか、ということから考え始めるわけなんです」

こうしたフェアトレードの考え方は、国際間の問題だけでなく、「人よりも会社の生き残りを大事にする」という不況下の日本の状況ともシンクロしている。

欧米チャリティ発想との違い

フェアトレードに関しては歴史の長い欧米団体と、日本の会社である彼らのスタンスの違いについても、興味深い話を聞かせてくださった。
「欧米の海外援助系団体は、キリスト教会のチャリティ、慈善活動がベースになっているので、あまり商品開発とかマーケティング志向はなかったんです。クリスマスのバザーとかでチャリティイベント的に売るというのが一般的で。そのため不況でモノが売れなくなると、マーケットのニーズに対応してこなかった団体の商品はすぐに売れなくなってしまうわけです」
「衣料品は、デザインやクオリティの要求レベルも高く手間がかかり、先行投資や人材も必要になってくるので、欧米では衣料品を中心に展開しているフェアトレード団体は少ないんです。私たちが衣料品に力を入れているのは、エスニック雑貨等と違って生活必需品だから市場の間口が広がって安定的に売れることを期待しているわけです。また衣料品の場合、生産のプロセスが多様で色々なプレイヤーが関わるので、恩恵を受ける人が広がる、ということも重要なんです」
フェアトレードカンパニーの場合、慈善団体やＮＰＯではなく営利法人という形態をとることで、人材の投入や先行投資を戦略的に行い、ちゃんとしたビジネスとしてフェアトレードを成立させようと孤軍奮闘しているわけだ。

モノの背景をみようという運動

胤森さんは、生産者と消費者との関わりについて、こんなことも語ってくれた。
「買うということに対して、今ものすごく空虚な状態になっていて本当に必要なものを自分がつくることができないし、都市住民というのは自分で生み出すということができなくなった人たちなわけです。自分では作ることができないものを自分のかわりに作ってくれた人達から買っているわけですが、せめて作っている人に感謝しながら、『これは自分ではつくることはできないけれど、これをつくってくれた人に感謝して、それなりの対価を支払おう』という意識がもう少しあってもいいのかなと」
作られるところが全く見えなくなることで、つくった人への「対価」とか「感謝」という感覚がなくなっているということが実は空虚さの正体なのかもしれない。
「このきれいな野菜がどういう過程をへてやってくるのか、という想像力がなくなってしまって、冬でもおいしいトマトが食べられるとか、結果の便利さだけに関心がいってしまっている。フェアトレードというのは、モノの背景をみよう、という運動でもあるんです」

■ スタディツアーという「流通願望」

ガールズＮＧＯのグランツーリズム

若い世代で最近、海外協力系ＮＧＯへの関心が非常に高まっているようだ。生活総研で2月に実施した「社会問題やＮＰＯに関する生活者意識調査」の世代別分析では、23-27歳のポスト団塊ジュニア世代（ちょっと前にはコギャルブームをつくった世代）が最もソーシャル意識が高い、という意外な結果が明らかになった。そして彼らが一番関心を持っている分野が「海外協力」なのである。
そんな若い世代のＮＧＯ志向を実感すべく、筆者は今春、ある国際協力ＮＧＯが主催する「ネパール国際協力スタディツアー」という研修旅行に参加してきた。このＮＧＯが取り組んでいるのは「ネパールにおける人身売買、子供と女性の人権」という極めてシリアスなテーマなのだが、参加している若い人達は、ごく普通の学生さん、ＯＬさんという感じで、みんな気軽な雰囲気で参加してきている。若い参加者の人たちに話を聞いていると、「スタディツアー」という言葉はかなり一般的に浸透している様子。多くのＮＧＯが、自分達の活動を知ってもらおうとスタディツアーを毎年定期的に実施するようになっていて、インターネットで検索するだけでも膨大なツアー情報が入手できる。

慈善ではなく交感 ―日本人独自のコミュニケーションスキル―

国際協力ＮＧＯの世界でも、欧米ＮＧＯは「慈善発想」（与える、施す）が主流だというが、今回のツアーで一番印象に残ったのは、日本人（特に女性）が現地の人と交わる「共感力」「交感力」といった能力だ。ネパールでは、人身売買の被害から逃れ救出されたもののHIV感染してしまった女性たちが療養しているホスピスを訪問したのだが、そうした場に戸惑いながらも、一生懸命ホスピスの女性たちと交わろうとするツアー参加者の姿は何故か「未来的」な感じがしたのだ。一方的に何かを与えているわけでもないし、単に現地の状況をスタディしているだけでもない。そこではまさに「交感」という現象が起きている。ＮＧＯ専門家の話では、こうした現象は日本人特有のことなのだという。勿論、お金を寄付してホスピス施設を改善していくことも大事なことだが、日本人の女の子たちとホスピスの女性たちが、一緒に泣いたり笑ったりできるということはもっと大事なことなのではないか。お金やモノの援助と共に、こうした「感情」が流動することも大きな意味があるのではないか。
例えば、日本人の若い女性がネパールのホスピスに行って交流するという稀有な「人の流通」には、また別の新しい人の流れや気持ちの流れを生み出すような強い力が秘められている。スタディツアーという新しいタイプのグランツーリズムはそんな可能性を秘めた「流通願望」なのかもしれない。そして、このような新しい流れを先導しているのが実は日本だという事実。日本発オリジナルの国際協力コンセプトが生まれていることにはもっと注目してもいいのではないだろうか。

＜さいごに＞自分流通のすすめ

～踊るような動きのある生活へ～

ポスト工業化社会には2つのイメージがある。
→情報化社会---人に動きがない
→サービス化社会----人に動きがある
多分、後者のサービス化社会とは人が中心となる社会で、人が端末の前に座っているだけでなく、踊るような気持ちのよい動きがある社会なのではないだろうか。

グローバリズム（＝世界の商品化）の奔流に対して、流れを断つこと（アンチグローバリズム、コミューン化、引きこもり等など）はある意味簡単なことかもしれない。でも、新しい流れをつくることの方がもっと楽しくて気持ちいいことのはず。
そして、それはそんなに難しいことではないのかもしれない。
例えば、単にもっとムダに歩き回って、ムダに人に会ってみること。
デフレでモノの動きが鈍り、お金の流れが淀んでいるからといって、人が淀む理由はどこにもない。逆にいえば、人がもっとムダに動きまわり、ムダに人に会って、ムダなものを交換する、ということにこそ経済活性化の鍵もあるのではないだろうか。

一週間で122,861歩　20代女性Kさん・ダンサー（東京・渋谷）の記録シート

日付	歩数	会った人数	今日はどんな日でしたか？
7/25(金)	16,159	13	クラブから帰ってきてバイト
7/26(土)	29,711	12	習い事、買い物
7/27(日)	17,301	6	バイト
7/28(月)	9,325	15	バイト
7/29(火)	21,168	5	町田へ行った。ダンス
7/30(水)	13,257	8	バイト
7/31(木)	15,940	15	バイト
合計	122,861 歩	74 人	20代女性Kさん・ダンサー（東京・渋谷）

生活次郎の偏見自在 ◎連載第5回

動かなくなった「ホモ・モーベンス」

いまにして思うと、生活にIT化が始まって現実の行動と心理的に感じる現実感が遊離し始めた最初の出来事は給与の銀行振込だったのかもしれないと思うのです。このことが始まってしばらくして、様々なところでいわれ始めたのが、実感として、給料を会社がくれるのではなくて銀行からもらっている感じがするということでした。

そして、いま、この現実感の遊離はいろいろなフィールドで格段に広がっているようです。

まったく顔を合わせずに、まず原稿の依頼がメールで来て、内容の詰めがメールでやり取りされ、その後パソコンで原稿を作成して、できた原稿をメールで送り、後日、原稿料が銀行に振り込まれる。そんなすべての道程が電子的手段で行われることが当たり前になってきました。

あるいは、会議に参加するメンバーのスケジュール調整から、会議で使用する資料の事前配布、そしてその資料への質問と回答、あるいは各自の意見表明など、こちらもすべて電子的手段でされることも珍しくありません。

はたまた、店に行くことなく、パソコンで検索した農産物をメールで生産者に直接注文し、その代金の振込みや、食後の感想メールから始まった生産者との情報交流もすべて電子的手段でされる経験も、いまや当然のことのように行われています。

人は動く動物であるという意味で「ホモ・モーベンス」と名づけたのは60年代の終わり頃の黒川紀章氏でしたし、氏のその思想を具体化するために、定着しない都市住民のための集合形態まで実際に開発されました。

しかし、そこから30年以上たち、いまや、電子の道を動きこそすれ、リアルな移動をしなくなってしまいつつある現代人は、その存在意味を大きく変えようとしているのかもしれません。

実際に空間的に移動しなくても、ただ情報の移動だけで、昔は実際に動かなければ獲得できなかった経験ができてしまうと思ってしまう現代人。

この傾向が続けば、その昔、SFのシーンに登場したような、移動（つまり運動です）のための機能を格段に退化させ、情報のやり取りをする機能だけが異様に発達した身体を持つ未来人への変態が、いま始まりつつあるのかもしれません。脳だけが異様に大きく、足や筋肉は異様に萎縮した体を持つ未来人です。

そんな姿になることを本能的に恐れ始めた一部の目覚めた現代人が、まさに流通願望を拡大させているのかもしれません。そして、電子的手段が発達すればするほど、実際に面と向かう、あるいは実際に移動する、といったリアル行動でしか経験できないことがいかに貴重なことなのかを実感するのでしょう。

かつて寺山修二は「若者よ、書を捨てて街に出よ」といいましたが、いまや、書を持ちつつでかまいませんが、街に出る必要があるのは若者だけではないようです。自分自身を流通させ、新しいリアルな関係の構築は、いま、すべての日本人に必要な行動なのかもしれませんね。

生活新聞 No.385
発行／博報堂
企画編集／博報堂生活総合研究所
(03)3233-6450
http://www.athill.com
発行日／平成15年8月18日
担当：和波弘樹
編集ディレクション：高橋哲久
デザイン：長内綾子（無限大）
社内資料